

第5回おだわら障がい者基本計画策定検討委員会議事録

日時：令和5年3月27日（月）

午後2時00分～

場所：小田原市役所全員協議会室

出席委員：小野康夫、長谷川剛、石塚ミドリ、安藤豊子、恩蔵幸一、石黒達也、大友崇弘、三浦睦子、岡本郁后、甘粕明、宮内宏人、佐々木智子、磯崎夫美子、廣瀬忠明、山本潤、秋山道江

欠席委員：柏木勢、河辺邦夫、山崎美由樹、高橋優子

事務局：中津川福祉健康部長、川口福祉健康部副部長、竹縄障がい福祉課長、栞原副課長、神谷係長、中村係長、村岡係長、小沼主査、渡邊主査、和田主査、山口主任、三元主任、杉崎主事

傍聴者：なし

[議事]

議題（1）

パブリックコメントの結果について

資料1 パブリックコメントの結果

事務局

資料1をもとに説明

【質疑なし】

議題（2）

第3期おだわら障がい者基本計画（案）について

資料2 第3期おだわら障がい者基本計画（素案）に関する委員意見と対応

資料3 障がい者福祉に関する市町村計画比較表

資料4 第3期おだわら障がい者基本計画（案）

事務局

資料2をもとに説明

廣瀬委員

個別の取組 87、情緒障がい通級指導教室の実施だが、取組内容に児童生徒の「生徒」を

追加するのであれば、「市立小学校に在籍する」のところに「中学校」も追加しなければ、小学校の児童のみになってしまうのではないか。

事務局

ご指摘のとおり訂正させていただく。

事務局

資料3をもとに説明

【質疑なし】

事務局

資料4をもとに説明

宮内委員

この計画には130以上の個別の取組がある。これだけたくさんの個別の取組をできるのか。福祉健康部の職員だけではできないと思う。地域の協力方法について、計画に盛り込む、または、こういう風にやってほしいと言ってもらえれば動きやすい。

横の連絡を取りながら地域に落としただけであればと思う。

事務局

進捗管理を行っていくことは大切である。第2期の本計画についても進捗状況を確認しているが、今後も確認していく。地域障害者自立支援協議会に報告することも位置付けているので、地域の方の協力も得ながら進めていきたい。

宮内委員

障がいについて広く周知していくことが必要であるが、目に見てわからない障がいもある。それは周囲の人しかわからない。特性のある程度の人に知らせてあげた方がよいのではないか。防災訓練に参加した時も感じたことがある。行政側で知らしめて欲しい。

事務局

外見上そうと分からない、聴覚に障がいのある方等の場合は、ビブスを用意して欲しいとの意見があった。ビブスは用意する方向で進めている。また、ヘルプマークの配布についても行っている。親御さんが知ってもらいたいとの気持ちがあれば、そういった対応を実態に即して対応をしていきたい。

甘粕委員

地域の防災訓練の時の話だが、精神障がい者、知的障がい者は騒いでしまう。身体障がい者が、車いすごと小学校の階段を上がって上の階に連れていかれた。身体障がい者が上の階に行くのは大変だった。

精神障がい者、知的障がい者が他の方の迷惑になるのとのことで、2階の教室につれていかれた。他の方に理解いただき、他の方と同じ場にいてもらった方がよいのではないかと感じた。

事務局

昨年の本委員会でも同様の御意見をいただいている。その際、防災担当部局に意見を伝え、課題を共有している。啓発活動を今後も行っていきたい。

石塚委員

ピアサポーターの体験を聞く機会があった。認知症サポーターは、いろいろな地区で行っているが、精神障がい者については、そういった機会がないので、そういった場を作って欲しい。

事務局

有用な御意見である。今後の参考にさせていただきたい。

安藤委員

長年、障がい関係の業務に携わっている。施設がある地域は障がい者に対する理解が深まっていると感じている。

三浦委員

おだわら障がい者基本計画について、CDに録音して、視覚障がい者に配布して欲しいと考えている。

事務局

音訳・点訳版どちらも用意する予定でいる。

【異義なし】

議題（3）

その他

中津川部長挨拶